# 平成 29 年試験（2016 年 12 月実施）第Ⅰ回　短答式　的中実績

## 財 務 会 計 論

### 本試験

問題 2　討議資料「財務会計の概念フレームワーク」に関する次の記述のうち，正しいものの組合せとして最も適切な番号を一つ選びなさい。(8 点)

～　略　～

イ．同様の事実（対象）には同一の会計処理が適用され，異なる事実（対象）には異なる会計処理が適用されることにより，会計情報の利用者が，時系列比較や企業間比較に当たって，事実の同質性と異質性を峻別できるようにしなければならない。したがって，会計情報の比較可能性を確保するために，形式が同じであれば，同一の会計処理が求められる。

≪解答 2≫

イ．誤　本肢の記述は誤りである。比較可能性は必ずしも，形式基準を求めるものでも，画一的な会計処理を求めるものでもない。したがって，形式が同じであっても事実が異なる場合には，当該差異が会計情報の利用者の比較にとって必要であり，それを知ることが利用者の意思決定に役立つのであれば，その差異に応じて，異なる会計処理（方法）が必要とされる(「財務会計の概念フレームワーク」第 2 章 11，12 参照)。なお，本肢前段の記述は正しい。

### 短答ポイントアップ答練　第２回

問題2　わが国の討議資料「財務会計の概念フレームワーク」に関する次のア～エの記述のうち、正しいものが二つある。その記号の組合せの番号を一つ選びなさい。（８点）

～　略　～

エ．会計情報が利用者の意思決定にとって有用であるためには、会計情報には比較可能性がなければならない。比較可能性とは、同一企業の会計情報を時系列で比較する場合、あるいは、同一時点の会計情報を企業間で比較する場合、それらの比較に障害とならないように会計情報が作成されていることを要請するものであり、そのためには、同様の事実（対象）には同一の会計処理が適用され、異なる事実（対象）には異なる会計処理が適用されることにより、会計情報の利用者が、時系列比較や企業間比較にあたって、事実の同質性と異質性を峻別できるようにしなければならない。

≪解答 2≫

エ．正　本肢の記述は正しい（討議資料「財務会計の概念フレームワーク」第２章 11 参照)。